



地球

2006年冬号

男女が共に生きる情報紙 VOL.67



笑って・感じて・気付いて・変わる

～桂文也のジェンダーブレイク～

前半はユーモアたっぷりの講演、後半は創作落語の「目覚めのススメ」でおおいに笑った
 第16回目「共に生きるフォーラムふじさわ2005」
 男女共同参画をはばむ「思い込み」に気がきました。

もくじ

- 気付いた人から行動しよう!
- もう頑張らなくていいよ
- 講演後のアンケートから
- プチ鬼嫁日記
- インフォメーション

気付いた人から行動しよう!

11月5日(土)、藤沢市役所新館7階で「共に生きるフォーラムふじさわ2005」が開催された。講師は落語家の桂文也師匠。前半の講演、後半の創作落語をとおして、楽しく笑いながらも、心の奥底に潜む「思い込み」について考えさせられた。

例えば男らしさ、女らしさという言葉。何気なく使われているが、何をもちて男らしいといえるのか、女らしいといえるのか、合理的に説明できますか? と、師匠は問いかける。確かに思い描くイメージはあっても、誰にでも納得できる根拠を示して説明することは、できない。

「人間もつすべての能力は個人差です。男女差はあり得ない。あり得ないことを押しつけられることの痛さ、苦しみは女たちが一番よく知っている」という言葉には大きくうなづいてしまった。女の子なんだから…、女のクセに…と言われて反発し、意思を通そうとして実現したこともあれば、深く傷ついたこともあった。

師匠は、多くの妻が夫の思い込みの間違ひ、例えば家事や育児、介護は女の役割という思い込みに対して、「それは違う」と言えず、我慢してあきらめている現状をあげ、その背景には、何らかの力関係—経済的な負い目か、実際の力による抑圧か、人間関係のゆがみがあると指摘する。「そのことによって、まっとうに向き合えない夫婦の像が家庭のなかで再生産され、より強固に次の世代

に押しつけられていくことは恐ろしいことだ」と語った。確かに、夫婦の間で何らかの力による関係があるとすれば、力のある方の言い分が通って、力を持たない方が我慢するという結果になりやすい。我慢すれば不満がたまる。定年退職後の夫を粗大



桂文也氏(落語家)

1952年京都市生まれ。大学在学中、落語研究会に所属。桂小文枝(現五代目桂文枝)に門下8番目の弟子として入門。現在フリー落語家として活動。

ゴミや濡れ落ち葉と笑うことは、その不満の一つのほけ口なのかもしれない。

ゴミ扱ひされてしまう夫も悲しいが、愛し合って結婚したはずの夫をそんな風にしか言えなくなってしまう妻もまた寂しい。そういう夫婦の関係から子どもたちは人間関係のあり方を学んでしまうかもしれない。どちらが悪いというわけではない。男らしさ、女らしさに象徴される間違った思い込みが、「その人らしさ」を尊重できない関係を生み出してしまうこと、それが次の世代に連鎖していくことの怖さを、師匠は語ってくれたように私は思った。

落語の中でもこのことを象徴するような話があった。会社をリストラされた夫が自分らしく生きようと、田舎暮らしを思いだったが、「私らしく」生きるためには、相手の「私らしさ」も尊重しなければ成り立たない。相手の「私らしさ」を踏みにじて自分だけが「私らしく」生きようとしても、それは自分勝手になってしまう。お互いを尊重することのできない関係から生まれた喜劇(悲劇)を、私はこの落語から感じた。

師匠は「連鎖を断ち切るためには、自分の問題として気付いた人から、変わっていきましょう」と呼びかける。私には次の言葉が印象に残った。「自分が変わればいいんです。次世代のために。一步踏み出すことで、自分の周りの人間、家族、地域、国が大きく変わるかもしれません。そういう希望を捨てないでいただきたい」

(松永 記)

笑って乗り越えて気付けよう!
—桂文也のジャンパーブレイク—

講師 桂文也氏 (落語家)

日時 11月5日(土)
13:00~15:00 (開場12:30)

会場 藤沢市役所 新館7階 第2会議室
〒252-0292 藤沢市役所 新館7階 第2会議室

定額 1500円(税込) (会場前払)
※会場前払 現金(当日) (当日) (当日)

申込み 電話 045-241-2400 (受付時間 10:00~17:00)
FAX 045-241-2400
E-MAIL 045-241-2400
FAX 045-241-2400
E-MAIL 045-241-2400

申込み 問合先
〒252-0292 藤沢市役所 新館7階 第2会議室
TEL 045-241-2400
FAX 045-241-2400
E-MAIL 045-241-2400

主催 藤沢市役所 新館7階 第2会議室

もう頑張らなくていいよ

女性である私は、男性はジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）によって「得をしている」という全くの被害者意識で考えていました。ところが文也さんの講演で「男性の自殺者が働き盛りの40代・50代に多いのは男への周囲の期待感が強いことも一つの要因であろう」とのお話を聞き考えさせられました。男は経済力、体力で女性に優位に立たなければならない。男だから家族を養うのは当たり前というジェンダーに縛られた哀しい結果のひとつだと思うと、男性の立場からこのことについて考えてみたいと思いました。お互いの立場を替えて見ることによって両性の距離が縮まるのではと思ったからです。男性は女性に比べ相談すること自体恥ずかしいと考え問題を深刻化しがちであるという指摘もあり、引きこもり、自殺者は圧倒的に男性に多く、平成15年の自殺者32,109人のうち男性は23,396人、女性は8,713人で男性が3分の2を占めています。（厚生労働省・人口動態統計）

「男の〇〇、女の〇〇という根拠のない性別のつく言葉は検証してかかりましょう」と文也さんは語られました。改めて気付かされたことでした。

例えば、「男の料理」という言葉がありますが、皆さんはどのようなイメージを持つのでしょうか。「豪快ですか？おおざっぱですか？」と文也さんは問いかけてました。確かに、料理は作った人が上手だから美味しいのであって、女が作ったから美味しく、男が作ったからまずいということはありません。私事で恐縮ですが、今でこそ私の方が夫より料理は上手ですが結婚当初は婦とさんまの区別もつかず、魚屋さんから「ダンナ、ひどい嫁さんをもらったな」と冗談半分言われたもの



です。料理は男女の差ではなく誰もが経験を積んでいくうちに工夫し上手になり感性も磨かれていくものだと思います。



私の子育ての経験で男の子の親の立場でいえば、運動部のキャプテンということで小学生の息子は不始末の一端として度々コーチから殴られていましたが、暴力による心身の痛みは男女差はないのに男子の方が女子より多く受けていると思います。

また、女性は母親とべったりしていても、ほほえましいのに男性が同じにしているとは日本ではそうは見られません。しかし外国では母親と青年が手をつないでいる光景を見ると、お互いに寄り添いたい気持ちに男女差や、国籍の違いはないのだから「男らしさ、女らしさ」はもって生まれた生物学的な男女差からではなく、社会的、文化的な環境からの要素を受けて作られたものであるということがいえます。

40年前ごろは、おしゃれは女性の特権のようでした。（おしゃれな男性もいましたが）髪の毛、アクセサリーなど目立つおしゃれに男性は関心がなかった（ように思えました）。ところが男性化粧品が現れたときはビックリ。現在は男性もすっかりおしゃれが普通になり目を楽しませてくれています。「おしゃれをしたい！」という気持ちに男女差はなかったのだと実感。……ということは女性だけと思っている現在の習慣の中には男性が憧れているものがたくさんあるかもしれません。ピンクの好きな男の子も、ブルーの好きな女の子も一人ひとりそれぞれの持ち味を生かし、周囲がそれを受け入れて生きていける社会が望ましいのだと私自身啓発されました。

（井戸 記）

講演後のアンケートから

桂文也師匠の講演後に書かれたアンケート(参加者135人・アンケート回答数63…回答率46.7%/女性48・男性14・無回答1)を集計しつつ、男女平等について抱えている人々の意識について考えてみます。

「男は仕事、女は家庭という考え方についてどう思いますか？」

という問いに対しては、男女共に約2/3が「そう思わない」と答えています(表1)。ただし、「そう思う」と答えたのは男女共に70才以上の方がほとんどで、年齢層が下がるにつれて、「そう思う」と答えた人は激減しており、社会のあり方については徐々に意識が変わりつつあることが分かります。

「今の世の中は一般的に男女平等になっていると思いますか？」

の問いには、男女共に約8割の人が「そう思わない」と答えています(表2)。前の設問で、男女の固定化した役割について疑問を持っていることが分かりましたが、現実問題として男女は未だに平等ではないという認識を持っていることが垣間見れます。まだまだ課題は多い、ということでしょうか。

男女平等ではないと感じる理由としては、「社会が依然として男性中心である(70代、男性)」「賃金格差がある(50代、女性)」などが挙げられていました。また「平等を求めながらも女性専用車両のような制度を女性が当然のように享受するのはアンバランス(50代、女性)」といった意見もあり、何をもって男女平等というのか? という部分が実はブレているのではないかと感じました。女性専用車両は男女平等という流れに逆行しているのか? しかし痴漢に会う危険性が高いのは圧倒的

に女性であり、救済手段を用意することは、また別の話ではないのだろうか、と思考の袋小路に入ったような気分です。文也師匠は「考えてください。向き合ってください」と講演中、再三呼びかけていましたが、私もややこしい問題だからと投げ出すのではなく、考え続けることにします。

男女平等ということで、ともしれば出る杭を打って何が何でも横並びにはしていないでしょうか。出る杭を打って、あるいは出たくない杭を無理矢理引き上げて横並び状態を作り上げるのではなく、出る杭が打たれない、出たくない杭は出なくても許されるという懐の深い社会こそが真に目指すべき平等だと思のです。そういった意味では女性専用車両というの問題ないよう思っています。一方で、痴漢に間違われるリスクを避けたいという男性も多いでしょうから、男性専用車両を作ればそれでいいのではないのでしょうか。師匠の講演でも「個人の能力をそのまま認めること、多様性を認めることが大事です」と語られていましたが、平等にするというよりは多様性を認めること、それがすなわち男女平等への道だと思のですが、皆さんはいかがお考えでしょうか?

(吉村 記)

(表1)

Q:「男は仕事、女は家庭という考え方についてどう思いますか？」

| | そう思う | そう思わない | どちらとも言えない |
|----|-------|--------|-----------|
| 男性 | 14.3% | 57.1% | 28.6% |
| 女性 | 14.3% | 63.3% | 22.4% |

(表2)

Q:「今の世の中は一般的に男女平等になっていると思いますか？」

| | そう思う | そう思わない | どちらとも言えない |
|----|------|--------|-----------|
| 男性 | 7.1% | 71.4% | 21.5% |
| 女性 | 6.1% | 77.6% | 16.3% |

づち鬼嫁日記

妊娠中に市の母親学級で知り合った友人3人とその子どもたちで、この秋一泊旅行に出かけた。旅行に出かけるのはこれが2度目で、1年1度のお楽しみとなっている。今年は第2子を連れて参加した友人もあり、計9人の賑やかな旅になった。初めての旅行の際は一泊2食の間、家事を一切せずすむことや子どもたち同士で勝手に遊んでくれること、何より夜は遅くまで大人だけのおしゃべりを楽しめることに非常に感動した。そして、今回もとても楽しみにしていた。

夜になった。子どもたちがひとり、二人と眠りに落ちていき、窓の外は信じられないくらい美しい星たちが輝いている。私たちは子どもを起こさないよう、暗闇の中で小さな声で乾杯をした。そして、今日一日の感想や、近況を報告しあう。普段はそれぞれ幼稚園なども違い、会うことが少ないので互いの日々の暮らしぶりに驚き、笑い、感心する。その中で私が一番感動したのは、皆がそれぞれ、1年で強たくて美しい「づち鬼嫁」に成長していたことだ。

実は去年の旅行中、他愛ない話から「実は夫に知らないうちに気を遣っている自分がある」と告白した友人がいた。無意識に顔色を伺い、なんとなく自分は下手に出ている気がする……それにほとんどの友人が同調した。私も同じく、そうかもしれないと考えた。しかしそれは単に自分のコンプレックスのせいだと思っていた。友人たちは明らかに主婦業も私以上にきっちりとこなし、子育てだって一生懸命取り組んでいるし、ルックスだって悪くない……夫の顔色を伺うなんてまったく必要ないではないか。

「例えば、休みの日に子どもの面倒を見てくれた夫に“ありがとう”で済むところをつい“ごめんね”と言ってしまうの。そうするとパパは少し怒って“どうしてそんな卑屈になるの?”って言ったの。パパは外で働いてお給料をもらっているのに、子育ては私の役目なのになって思っているのかもね」

外で働いている夫。自分は一日中子育てと家事で、経

済的生産は果たしていない。食べさせてもらっているんだという思いは、出産前まで仕事を持ち自立していた女性のスタンスを崩させる。夫の方が私より上、という精神状態に自然と置かれてしまうのだ。私たちはいかに「お金を稼いでくれること」が大きな意味を持つかを痛感した。同時に男は仕事、女は家庭。そんな世間からの無言の重圧に誰しもが苦しんでいることを知った。そして結論はこうなった。

「子どもは二人のものでしょ。二人で仲良く育てるものだよ。だからパパは怒ったんだよ。怒ってくれるパパでよかったじゃない。“ごめんね”はいらないよね。“ありがとう”でいいんだよ」

さて、では今年の真夜中の語らいではどうだったかという……。

「ちょっと聞いてよ！うちのパパったらさ、“休みの日に俺にウンチの処理させるなよな～”っていうから“じゃあ毎日それをやってるあたしはどうなるのよ!”ってづち切れたのよ。そしたら“ごめんなさい”って反省してたよ(笑)」

そう。友人たちは皆、夫に自分の気持ちをすべてぶちまけられるようになっていたのだ。これはなんとも気持ちがいい！私たちは大いに笑った。相手にぶつかるのは勇気がいるし、パワーも使う。しかし、小さなことだって“おかしい”と思ったら伝えないと伝わらないのだ。男だって女だって、毎日生きていくのは大変だ。それを補いあって協力してこそ“家族”なのよ！そう伝え続けた私たち。

私たちはこの1年でそれぞれ“家族の絆”を強くできたのではないだろうか。何よりこうして家事をお休みさせてもらって、また旅行に来れたのも夫が外で頑張ってくれているからだ。男も女も互いに感謝しあい、卑屈にならず、威張らず、いつまでもいい関係を保っていけたら素晴らしいのではないだろうか。

(中村 記)



インフォメーション

◎男女共同参画課からのお知らせ

男女共同参画について、 一緒に考えてみませんか？

藤沢市男女共同参画課では、市民のみならず男女共同参画社会づくりに向け、様々な施策を行っており、来年度に向け市民公算を行います。皆様の参画をお待ちしています。

①ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員
「ふじさわ男女共同参画プラン2010」の推進と進行管理を担う組織として設置されている協議会委員の募集です。

②かがやけ地球編集員
本紙「かがやけ地球」の企画・取材・原稿作成等を行う編集委員の募集です。

③共に生きるフォーラムふじさわ2006実行委員
今号でも取りあげた、毎年秋に開催している「共に生きるフォーラムふじさわ」の企画・運営を行う実行委員の募集です。

公算の詳細については、広報ふじさわでお知らせします。

①・②については、広報ふじさわ2月25日号、
③については4月10日号に掲載予定です。

◎労働会館の講座

問合せ・申込み：☎ 26-7811

就職支援セミナー

■内 容：就職のプロセス、選考通知、応募書類の書き方、面接対策ほか。
■日 時：2/7(火)、3/7(火)
①正社員希望者対象……………13:00～17:00
②パート・アルバイト希望者対象…10:00～12:00
■対 象：市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各36人
■申込み：広報ふじさわ各月10日号に掲載

就職支援個別カウンセリング

■内 容：就労に向けた相談に個別にアドバイスします。
■日 時：2/2、9、16、23、3/2、9、16、23、30(全木曜日)
10:00～16:45(但し、毎月最終日は13:00～16:45まで)
■対 象：市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各5人
■申込み：広報ふじさわ各月10日号に掲載

◎公民館の主な催し

問合せ・申込みは各公民館へ

女性セミナー～家族「する」～ 片瀬公民館 ☎ 27-2711

■内 容：今や家族は「ある」ものではなく「作る」ものです。
今一度自分の家族を見つめ直してみませんか
■日 時：2/14～3/14の毎週火曜日 全5回 10:00～12:00
■対 象：女性20人 ※保育所相談
■申込み：2/2(木)より電話または来館

初心者のための太極拳教室 片瀬公民館 ☎ 27-2711

■内 容：心と身体の健康のために、初心者向け太極拳の講座を開催します
■対 象：2/25(土)、3/4(土)の全2回 10:30～12:30
■日 時：市民一般20人 ■申込み：2/6(月)より電話または来館

子どもフェスティバル 辻堂公民館 ☎ 34-8661

■内 容：公民館サークルや地域団体の活動を通して、
地域の子どもと交流する
■日 時：3/11(土)10:00～14:00 ■申込み：当日直接来館で

地球環境防衛隊2005パート5 藤沢公民館 ☎ 22-0019

■内 容：少年の森の野草試食会～春の草を見つけてたべようおひら～
■日 時：3/21(祝・火) 8:30～14:00
■会 場：少年の森及びその周辺(集合は藤沢公民館、バスで移動)
■講 師：高山 義則 氏(藤沢市科学少年団理事)
■対 象：小学生と親20組 ■参加費：100円(材料費)※当日集金
■持ち物：おにぎり、水筒、お弁当、お皿、おはし、コップ、筆記用具、
防寒対策グッズ など
■申込み：3/6(月)より電話または来館で

手編みで作る春のベスト 遠藤公民館 ☎ 87-3009

■内 容：季節の変わり目に便利でおしゃれなベストを手編みで作る。
■日 時：2/28～3/18の毎週火曜日 全3回 13:30～15:30
■対 象：成人(初心者向き)15人 ■申込み：2/16(木)より申込順

かがやけ地球は市民の編集員さんの企画・運営によって、
年4回発行しています。

編集スタッフ：井戸君江・中村博子・松永美佐希・吉村正香

おかげさまで
創業40周年



ふれあいのひろば
フジサワ名店ビル

☎0120-111-391 ☎23-0111(代)
http://www.fujisawa-meiten.com

inamotoya.com

140

いなりとや

From 1944
Eco-Friendly
Universal
Japanese Bashi

アクティブミセスからシニアまでの
快適生活をサポートする
ユニバーサルファッション・ショップ

オシャレで、着心地の良い服を
豊富に取り揃え、
皆様のご来店お待ちしております。

日経流通新聞、暮らしの手帖、
テレビ朝日などの掲載店

藤沢さかい屋2F・JR藤沢駅北口すぐ TEL&FAX 0466-22-3109

藤沢・茅ヶ崎・寒川「湘南」がエリアのFM放送局

FM 83.1 MHz

RADIO SHONAN FM83.1 MHz FUJISAWA

http://www.radioshonan.co.jp

STUDIO FAX No.0466-29-2121